

しゅんしやういつくちあたいせんきん
春宵一刻直千金

春の夜のひとときは千金にもかえがたい価値があります。

かてんげち
花天月地とは、花は咲き、月は明らかな夜のこと。

春の夜の美しい情景を表した言葉です。

朧に霞んだ月に照らされ、満開の桜を見ながら歩く春の宵は、
何とも言えない風情があります。

人類が初めて月世界に足を踏み入れたのは、今から 50 年前。

1969 年 7 月 20 日のことです。

アポロ 11 号のアームストロング船長は月面に降り立ったその時
「これは一人の人間にとっては小さな一歩だが、人類にとっては偉大な飛躍となる一歩だ。」
との言葉を発しました。

翌年、大阪で開催された日本万国博覧会に

アメリカ館は、

アポロ司令船や月着陸船とともに

月から持ちかえった「月の石」を展示し

万博最大の呼び物となりました。

アジア初の大阪万博は、日本が高度経済成長を果たし絶頂期の年。

掲げたテーマは「人類の進歩と調和」――

万国博覧会は時代ごとの文明の先駆けの象徴なのです。



ふるさとの風 花天月地の頃に――

April 2019

伊勢の博覧会

history of exposition in ise

【博覧会】 種々の産物を蒐集展示して公衆の観覧及び購買に供し、
産業・文化の振興を期するために開催する会。

『広辞苑』

博覧会は、中世の“フェア”（定期市・見本市）に起源を持つ。

19世紀、先進諸国では工業生産された商品を展示する催しが、人々を啓発し社会を発展させるのに有益と考えられるようになっていた。

“フェア”は鉄道などの交通機関の発達の影響により大規模になってゆき、国内博覧会へと発展した。諸外国を招いての大規模な博覧会、すなわち世界各国が参加する万国博覧会は、19世紀半ばにヨーロッパで誕生したものである。

万国博覧会が産声をあげたのは1851年（嘉永4）のロンドン。以後、ニューヨーク、パリ、ウィーン、メルボルンなど世界各地で国際博覧会が開催されてきた。

—日本と万国博覧会—

—1862 London—

日本と万博との関わりは、1862年（文久2）に日本の遣欧使節団が第2回ロンドン万国博覧会を視察したことから始まる。使節団には福沢諭吉や福地源一郎も加わっていた。

福沢諭吉は後に著書『西洋事情初編』（1886年（明治19））のなかで博覧会について次のように記している。

—博覧会— ～西洋の大都会には、数年ごとに産物の大会を設け、世界中に布告しておのおのその国の名産、便利の器械、古物奇品を集め、万国の人に示すことあり。これを博覧会と称す。

—1867 Paris—

1867年（慶応3）、二度目のパリ万博では、フランス皇帝ナポレオン三世から参加招請を受けた徳川幕府は快諾。「徳川幕府」、「薩摩藩」、「佐賀鍋島藩」が出展し、これが日本からの初の万博参加となった。明治維新前年のことである。開会式に派遣された使節団には、渋沢栄一や田辺太一の名前があった。

—1873 Vienna—

明治維新を経て、ようやく日本政府の公式参加が始まる。

その契機となったのが、1873年（明治6）のウィーン万国博覧会である。国際社会に新しい日本をアピールしたい明治政府は、積極的に参加。大隈重信とパリ万博に派遣された佐賀藩の佐野常民が中心となって博覧会事務局を設立し、各県に物産調査を指示、陳列品を選定収集し全力で準備が進められた。様々な物産のほかに日本庭園と神社も再現展示され評判となった。出品物は明治天皇がすべて巡覧したのちウィーンへ運ばれたが、そのなかで特に漆工や陶磁器をはじめとする工芸品が著しい好評を博している。名古屋城の金の鯨も出展され話題をよんだことが伝えられている。

日本は1876年(明治9)のフィラデルフィア万博、1878年(明治11)、1889年(明治22)のパリ万博と出展。次々と海外に渡った日本の美術工芸品が、パリを中心にヨーロッパにジャポニズムブームを引き起こしていった。また世界の舞台へ出たことをきっかけに、日本は急速に近代化へ向かう。さらに国内にあっても、欧米で開催されている「博覧会」なるものを企てようとする声があがっていったのである。

—京都博覧会—

日本で初めて“博覧会”と銘打った催事は、1871年(明治4)、京都の西本願寺の大書院を会場として開かれた「京都博覧会」である。

明治維新による東京遷都により火の消えたようになった京都の沈滞ムードを一掃して活性化を図ろうと開催された。中心となったのは後に三井財閥となった三井家当主三井八郎右衛門、小野善助、熊谷直孝ら京都の豪商たち。出品物は日本古来の武具、古書画、古陶器などで、博覧会と称しつつも物産会とよぶべき規模であったと伝えられるが、大勢の入場者を得て予想以上の成績を上げた。これが日本の博覧会事始めである。

この博覧会に始まった「都踊り」は春の京都名物として今日まで続いている。

京都博覧会開催後、同様の博覧会と称する催事が各地で開かれるようになり、文明開化の新風俗としてもはやされた。

—内国勸業博覧会—

日本における政府主催の博覧会は、1873年(明治6)のウィーン万国博覧会などの海外の万国博覧会への参加に端を発する。

内務卿大久保利通は殖産興業政策の一環として政府主催の博覧会の必要性を強調、「内国勸業博覧会」を制度化した。1877年(明治10)、東京上野公園で第1回が開催され、45万人以上の入場者を集める成功を収めている。この第1回内国勸業博覧会の開催が日本の産業促進に与えた影響は大きく、以後博覧会の原型となった。第2回(1881年(明治14))、第3回(1890年(明治23))を東京、第4回(1895年(明治28))を京都、第5回(1903年(明治36))大阪・天王寺での開催が最後となった勸業博は、回を重ねるにつれ日本社会に博覧会文化を根づかせていったのである。

その後、政府は内国勸業博覧会を発展させた「日本大博覧会」を構想し、実質的な万国博覧会となることを想定していた。しかし日露戦役後の不景気による財政困難を理由に5年間の順延となり、やがて中止が決定された。1890年(明治23)の「亜細亜博覧会」開催の断念に次いで日本で万国博覧会を催すことはなかったのである。

昭和に入り「紀元二千六百年記念日本萬國博覧會」開催が1940年(昭和15)に正式決定。しかし日中戦争はじめ世界情勢の悪化から無期延期となった。

かつて世界最大のイベントといわれてきた万国博覧会は、ロンドンに始まりパリで華開いてアメリカで育ったといわれている。欧米各地で開催された万博は、20世紀後半になるとアジアでの開催も見られるようになった。

—日本万国博覧会—

終戦から25年、ついに日本が万博開催にこぎつけた。万博120年の歴史でアジア初。それが、1970年（昭和45）、大阪で開催された「日本万国博覧会」（通称大阪万博）である。

ときはまさに高度経済成長のクライマックス。焼け跡から出発した戦後日本は「東洋の奇跡」と言われるまでの驚異的な経済成長を果たし、1968年にはついにGNP（国民総生産）が西ドイツを抜いて世界第2位になります。敗戦の屈辱から立ちあがった日本にとって、最後に残されていた課題は国際社会におけるプレゼンスの問題でした。1964年の東京オリンピックにつづいて万博を成功させれば、“先進国クラブ”へのパスポートが手に入ります。大阪万博はなんとしても成功させねばならない国家プロジェクトだったわけです。

(『万博の歴史』 平野暁臣／著)

明治以来の悲願であった万博主催。1890年（明治23）亜細亜博覧会、1912年（大正元年）日本大博覧会、1940年（昭和15）紀元二千六百年記念日本万国博覧会と三度、挑戦するも実現できず、ついに掴んだチャンスを日本は見事にものにした。

日本全土が万博一色に染まったのは、日常をかけ離れた驚くべき品々が場内を埋め尽くしていたからだ。前年夏にはじめて人類を月に送ったアメリカは、アポロ司令船や月着陸船とともに門外不出の「月の石」をもち込み、対するソ連は高さ80mの大空間にソユーズやポストークを吊ってわれこそは宇宙開発の覇者だとアピールした。

（一略）企業パビリオンも負けていない。50年後の日本をヴィジュアル化した『三菱未来館』、本格的なシミュレーターで操縦体験ができる『日立グループ館』、全天全周映像の『みどり館』、（一略）かつてない体験が満載だった。テレビ電話、レーザー光線、動く歩道、電子音楽…、はては「人間洗濯機」なるものまで、会場には山ほどの“はじめての体験”が待っていた。圧倒的な非日常だった。

(『図説万博の歴史 1851—1970』 平野暁臣／著)

「人類の進歩と調和」をテーマに掲げた大阪万博は、記録を塗り替える6,421万人を集めて歴史的な成功を収めた。

その後、日本での万博は、沖縄海洋博（沖縄県（1975年（昭和50）～1976（昭和51））、つくば科学万博（茨城県（1985年（昭和60））、大阪花博（大阪府（1990年（平成2））、愛知万博（愛知県（2005年（平成17））が開催された。

—伊勢の博覧会—

近代日本の幕開けとともに西洋からやってきた博覧会。

明治という新しい時代を迎え、伊勢でもいくつもの博覧会が開催された。

〔山田博覧会〕明治6年（1873）3月15日～5月15日

山田大世古町（現・大世古）の旧龍大夫邸を会場に、度会県庁、神宮司庁共催で開催された。三重県下で最初の博覧会であるとともに、全国的にも早い時期にあたる。

展示は神宮第五十五回式年遷宮の撤下御神宝などを中心に行われ、その内容について、「博覧会稟告」で「第一内外両宮ノ御神宝ヲ始メ 天産人造ノ器財 民間私蔵ノ珍秘 其他外国ノ物品 珍禽奇獣ニ至ル迄 況ク募集シー場ニ陳列シ」と述べている。

※この年のウィーン万国博覧会に日本は国家として初めて公式に参加した。

翌7年には、常磐町河崎世古の榎倉儀大夫方でも、3月1日から三ヶ月間博覧会が開かれている。しかし、詳細等は不明である。

〔明治記念博覧会〕大正3年（1914）10月1日～

宇治山田市の御幸通りで開催。日独戦の戦利品30余点を陸軍省から借り受けて展示。

〔新農業博覧会〕大正14年（1925）3月21日～5月10日

帝国農会と農業電化協会主催で、全国の農村への電力を利用した農業経営を奨励する目的で開催。宇治山田商工会は、博覧会協力のため市会と協賛会を立ち上げた。

農事電化協会は開催地を宇治山田に選んだことについて、農業の神豊受大御神の鎮座地であり、「所謂国民中心主義とも唱うべきものを、この際益々高潮する必要を感ずるので」と述べている。会場は、御幸通りに沿った岩淵2丁目付近で、陳列本館、演芸館、売店、正門、噴水、投光器などが設営された。農業の機械化及び電化を紹介する最初の博覧会であった。

〔御遷宮奉祝神都博覧会〕昭和5年（1930）3月10日～5月10日

前年（昭和4年）の第58回式年遷宮を記念して神都公会堂前（現宇治山田駅前）において開催。主催は宇治山田市。入場料は大人25銭、小人12銭であった。

また、この御遷宮と神都博覧会を見越して参宮急行鉄道及び伊勢電鉄も開通した。

開催の趣意書では御遷宮の奉祝を前面に押し出し、同博覧会規則の総則において、「本会ハ御遷宮奉祝ノ目的ヲ以テ之ヲ開設シ、国体ニ関スル資料ヲ展示シテ思想善導ノ一助タラシメ、及優良国産品ヲ陳列シテ産業ノ振興文化ノ發達ニ資スルモノトス」とされ、御遷宮奉祝の目的のもとに思想善導・産業振興に貢献するものとされた。

（『伊勢市史 第4巻 近代編』）

会場の展示館は、御物館、歴史館、国産館を主要会場とし、他に台湾館、北海道館、朝鮮館、樺太館、満蒙参考館も開設され、会場内には飛行塔、噴水塔、正門広告塔（白鹿）、大阪毎日館、大阪朝日館、三重県タオル館なども設けられた。

御物館は昭和天皇御即位の御大礼の際に用いられた御物や宮内省賞勲局から貸し下げられた勲章全種および各種記章類が展示され、建物は京都御所から下賜された神楽舎を修築

して「大礼記念館」と銘打たれた。歴史館は、建国以来の歴史を18に分けた主題を絵画や模型で展示し、上田萬年、森田神宮皇學館館長の監修によるものとされる。

御物館と歴史館は会期中「共に非常の人気で、実に押すな押すなの盛況を極めた」という。

(『伊勢市史 第4巻 近代編』)

産業博覧会的な趣旨で設けられたのが国産館であった。全国の各府県や市から出品された地方の物産を展示するもので、3府32県10市と南洋庁の参加を得た。

また展示館のみならず期間中は様々な集客イベントも催され、連日の大盛況が伝えられる。博覧会終了後、御物館、歴史館はそのまま残され、神都記念館として戦時中まで一般公開された。

博覧会は成功の裡に終了、この地域の景気振興策として、大きな役割を果たした。参加者数は、博覧会事務局の発表によれば44万5,196人（うち有料者32万2,588人）、これらの人々が市内で消費した金額は150万円（『伊勢新聞』昭和5年5月11日付）と想定され、旅館はいうに及ばず、交通関係業者、歓楽街も大いに賑わった。

(『伊勢市史 第4巻 近代編』)

〔紀元2600年記念日本大博覧会〕昭和15年（1940）2月11日～5月31日

名古屋新聞主催で開催された。

〔平和博覧会〕昭和23年（1948）3月31日～5月31日

戦後の市の復興を促す手立てとして開催された。宇治山田市と宇治山田商工会議所が共同主催。「趣意書」によれば、博覧会の目的として、産業復興と貿易振興、観光の紹介、文化国家・民主国家の建設を掲げている。昭和21年（1946）に伊勢志摩国立公園の指定を受けたこともひとつのきっかけである。

平和博覧會趣意書

山茶水明、風光明眉—天下の名勝として、伊勢志摩国立公園は指定せられました。その玄關口たる宇治山田市は、櫻咲く陽春を期し平和博覧會を開催し全国各地の産業復興の状態並に貿易再開に際し廣く優良輸出品の紹介をも爲し以て我國産業の復興進展に貢献し度い念願で御座います。同時に又観光日本を世界に紹介する意味に於て、全国各地の名勝をも内外観光客に表現展示して天然美による眞の平和招來をも計り度念じて居ります。

この他一現下の状勢より見て、最も重要なる衣食住に関する啓發的陳列展示や、子供本位の興味的、教育的陳列をはじめ、美術方面に到るまで廣範圍に涉り廣く深く之を表示陳列し以て文化國家の建設にも寄與致し度く計畫致しました。要するに外に對しては貿易の振興に重點を置くと共に観光日本を世界に紹介して観光客の誘致を計り、内に對しては眞の文化國家民主國家の建設といふ觀點からこれを意義あらしめ度いといふ精神に外ありません。

(『平和博覧會記念写真帖』)

会場は中央会場（徴古館を中心とした倉田山一帯）、西会場（宇治山田駅と周辺）、外宮前会場、宮町会場（宮町駅前）の四カ所に分散し、各種の展示や即売が行われた。

- ・中央会場…既設の徴古館を改築して利用されたアメリカ文化館を中心として、憲法館、国産館、貿易館、農業館などが設けられた。
憲法館は、この博覧会期間中の新憲法施行1年経過に際して「新しき憲法精神」の解釈を写真、図表、パノラマ等によって展示した。
全体の中心部には野外演芸場が作られ、様々なセレモニーやイベントが行われ、その左手には博覧会の象徴平和の鐘塔が立つ。
- ・西会場……観光館、美術館、子供科学館、演芸館などが立ち並ぶ。観光館は宇治山田駅階上を転用したもので伊勢志摩の観光を主体に各種の資料が展示され、大阪鉄道、三重交通、交通公社等や奈良県、岐阜県、高山市、福井県、滋賀県等の協賛出品もあった。
子供科学館では火星とロケットとの通信の様子をパノラマ化した展示や、発明品などが人気を集めた。
- ・外宮前会場…科学・労働に関する参考資料を展示した文化館が開設。その他、海女の実演サーカス、防犯展などがこの会場で行われた。文化館の建物資材は宮川・厚生両中学校の新校舎建設の用材として活用された。
- ・宮町会場…当時の最高の技術で建築された文化住宅が21戸（市全域で計50戸）展覧に供された。この住宅は前売り券の特賞商品でもあり、博覧会終了後には復興住宅として実用化された。

一方三重交通は、博覧会に協賛して伊勢志摩国立公園紹介の一周観光バス（16人乗り）を博覧会期間中（3月末～5月末）運行させた。この観光バスが県下で最初の観光バスであったともいわれている。

平和博覧会の入場者は約65万人に及び盛況のうちに幕を閉じた。戦後初の博覧会・平和博は伊勢を活気づけたばかりでなく、日本中に伊勢志摩国立公園の存在と伊勢神宮が健在であることを知れ渡らせたのである。

[御遷宮記念お伊勢博覧会] 昭和29年（1954）3月31日～5月31日

第59回式年遷宮（昭和28年（1953））奉祝と、伊勢志摩地域の各種産業・観光・文化を広く紹介し、向上を図るため開催。主催は宇治山田市と宇治山田商工会議所である。会場は倉田山公園会場と近鉄宇治山田駅前会場との二ヶ所とした。

- ・倉田山公園会場……神宮御神宝館、美術館、御遷宮記念館、観光日本、映画・文化、運輸交通、三重の産業、三重県総合開発、農業日本、産業日本館等。
- ・近鉄宇治山田駅前会場…縁結び館、食料の世界、水産日本、海女の実演等。

お伊勢博の会期中、内外の参加者が市内や二見鳥羽方面に観光に行き、神宮や伊勢志摩が大いに宣伝された。

〔伊勢参宮博覧会〕昭和33年（1958）3月19日～5月7日

伊勢商工会議所主催。伊勢神宮ご鎮座1960年奉賛、伊勢商工会議所創立30周年記念事業として神宮徴古館所在地一円で開催された。

主な施設及び催しは、神宮御神宝の特別拝観、倭姫御一代館、日本歴史画展館、神宮と民族の発展—参宮風俗—、伊勢音頭、南極昭和基地、子供の世界、真珠王国と竜宮パルダンス等。シンボルタワーとして神宮林（神路山・島路山）の風倒木数百本を材料として制作された勅使河原蒼風氏作の世界一の大生け花「摩天」が披露された。

結果は、予想外の成功の裡に終了。小規模であったが内容の充実した博覧会であったと称賛されたことが記されている。

伊勢の博覧会を語るとき、神都博覧会から参宮博覧会まで開催された昭和の全ての博覧会に関わった仕掛人の存在は欠かせない。「伊勢の博覧会男」と称された北岡善之助である。

〔北岡善之助〕

明治19年（1886）、度会郡下中之郷町（現伊勢市宮町）で誕生。この年太田小三郎が神苑会を設立している。横浜で少年期を過ごし、郷里に戻った善之助は大正7年（1918）、32歳で土木請負業北岡組を創立。日赤山田病院の建設など多くの事業を手掛けた。

大正12年（1923）の関東大震災後の復興事業のため、東京方面に進出。工事で得た膨大な利益は地元での次の事業の資金に充てた。最新式の土木機材を購入し、広大な土地を取得し、資材置き場や倉庫に利用した。北岡組は当地を代表する土木請負業者となったのである。

多くの事業を手がけ、事業家として名声を高めた善之助は、市議会議員として市政運営に励み、昭和2年（1927）には西田周吉らと共に宇治山田商工会議所設立発起人となった。設立後は、議員、副会頭をつとめ昭和14年（1939）には会頭に就任、昭和22年（1947）から同23年（1948）と宇治山田市長の座にあった。

その間開催された博覧会に彼は全精力を注いだ。抜群の行動力と卓越した企画力、他に類を見ないアイデア、そして何よりも情熱、強い意志があった。

北岡善之助の戦前・戦後に残る足跡の数々は、博覧会に際しての業績にも重なる。

彼の伊勢の地の活性化に尽力した偉業は計り知れない。

昭和37年（1962）7月16日、76歳で生涯を閉じた。

自序 全国に魁けて開催された、宇治山田市更生の前奏曲『平和博覧会』は、了わつた。清算された。吉凶混沌たる中に。市民と共に苦闘を續けた過去一年を顧みて、萬感胸を衝くものがある。そうして人の和が如何に尊く、偉大なものであるかを、泌々體驗した。私は、進駐軍及び官民の御援助を深く感謝すると共に、市長としての重大な公約を果した身軽るさを感じずるものである。平和博覧会の成果は、愛市の一念に燃えた市民の一致協力が結んだ實である。其の收穫の一粒一粒は、伸び行く宇治山田市の貴重な種子である。種子は、徒らに啄ばまれてはならぬ。

昭和二十三年十二月

北岡善之助

（『博覧会を了えて』）

平成の時代になり、伊勢では二つの博覧会が開かれた。

〔世界祝祭博覧会〕平成6年(1994)7月22日～11月6日

第61回式年遷宮が行われた翌年、「新たな“であい”を求めて」をテーマに伊勢の東郊にある朝熊山麓で開催された。愛称は「まつり博・三重'94」。

四つの副テーマ(“ひと”と“自然”とのであい、“もの”と“ところ”とのであい、“伝統”と“未来”とのであい、“三重”と“世界”とのであい)に沿って、会場いっばいに多彩な“であい”が展開されること。従来の博覧会の“展示館を見るだけが目的”という形態を崩し、新しい博覧会の創造を目指した。

広さ40ヘクタールの会場には外観も趣向も様々な29館のパビリオン。世界の5大陸をイメージした“まつりのゾーン”、古来全国各地から人々が集い、文化や情報の交流の場として賑わいを見せた伊勢の町並みを再現した“伊勢の伝統ゾーン”、あちらこちらに広場や池のある憩いの場が作られた。また主な催事が行われた県営サンアリーナは収容人員1万1千人の多目的施設である。

展示館内で展開されるさまざまな展示を始め屋外展示、“まつり”や伝統芸能、コンサートや舞踏、ストリート・パフォーマンス等の多彩な催事、飲食やショッピング等が複合的に提供され、「見る、触れる、味わう、買う、参加する、語る、学ぶ、交流する」等を同時に楽しむ体験することができる〈場〉の創出を目指し、会場全体を一つの演出空間としてとらえて、会場にいただけでも楽しい博覧会、単に見せられるだけの博覧会を脱した「新しい時代の博覧会=二十一世紀型博覧会」の創出を図るという目標達成をめざして取り組まれた。目標入場者数300万人、実際の入場者数は約351万人であった(『世界祝祭博覧会公式記録』)。

(『伊勢市史 第5巻 現代編』)

〔お伊勢さん菓子博2017〕平成29年(2017)4月21日～5月14日

テーマは、“お菓子がつなぐ「おもてなし」を世界へ”。県営サンアリーナとその周辺で開催された。全国菓子大博覧会は、全国の菓子を一堂に集めて展示・即売する祭典。菓子の歴史と文化を継承して後世に伝えるとともに、菓子業界、関連産業の振興と地域活性化に役立てようと、ほぼ4年に一度、各地の菓子工業組合主催で開催される。第1回は明治44年(1911)に東京で「帝国菓子飴大品評会」という名称で行われたのが始まり。「お伊勢さん菓子博」で27回目。三重県での開催は初めて。会場には、菓子職人の伝統技術を駆使した工芸菓子174点が展示された他、全国各地の銘菓が揃い、試食や購入が可能。最大の見どころは巨大な工芸菓子のシンボル展示。この菓子博では、浮世絵『伊勢参宮宮川の渡し』(歌川広重作)を題材に江戸時代のお伊勢参りの賑わいを幅10メートル、奥行き5.5メートルの巨大工芸菓子として三重県内の和洋菓子職人が匠の技を結集して再現し話題を呼んだ。伊勢でのお菓子の饗宴「お伊勢さん菓子博」は、連日盛況で58万4100人を集客した。

これが明治から平成において伊勢で開催された最後の博覧会となった。

明治から昭和、伊勢の地で行われた数々の博覧会—。

昭和5年の「神都博覧会」の成功は“神都”宇治山田市の飛躍を物語るものでした。また敗戦後の「平和博覧会」やその後の数度の博覧会は、戦後復興の起爆剤にもなり市の発展に繋がっていきました。

そして新しい時代平成を迎え開かれた二度の博覧会—。

20世紀の最後を飾る博覧会「まつり博・三重'94」は、舞台となる「伊勢」の地が、古くから“お伊勢まいり”を通じて全国各地から人々が集い、文化や情報の交流の場であった歴史を掲げて開催。テーマが語るように、“新たなであいを求めて”参加したすべての人々がまつり博を通じてさらなる“であい”“ふれあい”“交流”の輪を広げて新しい時代の一步を踏み出しました。

「お伊勢さん菓子博 2017」で話題を呼んだ巨大工芸菓子は、浮世絵『伊勢参宮宮川の渡し』（歌川広重作）をモチーフにしたもの。お伊勢参りが盛んだった江戸時代、神宮へ向かう街道沿いには、旅人の疲れを癒すための茶店がいくつも立ち並び和菓子でもてなしていたそうです。

“お菓子がつなぐ「おもてなし」を世界へ”のテーマは、まさに伊勢ならではでないでしょうか。

是の神風の伊勢国は、常世之浪重浪帰する国なり。
傍国の可怜国なり。是の国に居らむと欲ふとのたまふ。

『日本書紀』

二千年の悠久の時を超えて神宮が鎮座する伊勢—
育まれてきた文化や美しい自然は、長い歴史の中で次世代に繋がれていきました。

初春の令月にして、気淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫す。

『万葉集』

新たな元号は「令和」…

「令和」の二文字は現存する日本最古の歌集『万葉集』から引用されました。

「大化」以来、248を数える元号の中で、日本の古典が出典となったのは初めてです。

「人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つという意味が込められている」

(安倍首相)

新しい令和の時代

伊勢の地での博覧会の開催に思いを馳せます。

2025年万国博覧会の大坂開催が決まりました。

テーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」

大阪での万博開催は1970年以来、55年ぶり2回目。

また国内での開催は2005年愛知万博以来、20年ぶり6回目となります。

ふるさとの風
April 2019
伊勢の博覧会

【参考資料】



- ・ 図説万博の歴史 1851-1970 平野暁臣／著 小学館クリエイティブ 606.9/ヒ
- ・ 万博の歴史 平野暁臣／著 小学館クリエイティブ 606.9/ヒ
- ・ 万国博覧会の二十世紀 海野弘／著 平凡社 606.9/ウ
- ・ 日本の博覧会 寺下勅コレクション (別冊太陽) 平凡社 606.9/ニ
- ・ 伊勢市史 第4巻 近代編 伊勢市 L243/イ/4
- ・ 伊勢市史 第5巻 現代編 伊勢市 L243/イ/5
- ・ 伊勢市史 伊勢市／編 伊勢市 L243/イ
- ・ 伊勢商工会議所史 伊勢商工会議所史編纂委員会／編 伊勢商工会議所 L672/イ
- ・ 県史 Q&A 三重県生活文化部学事課県史編纂室／編 L201/ケ
- ・ 続三重の歳時記 中野イツ／著 光書房 L388/ナ/2
- ・ 続々三重の歳時記 中野イツ／著 光書房 L388/ナ/3
- ・ 御遷宮奉祝神都博覧会 記念写真帖
小林四五百／編 宇治山田 御遷宮奉祝神都博覧会協賛会 L606/ゴ
- ・ 御遷宮奉祝神都博覧会誌 宇治山田市役所 伊勢 宇治山田市役所 L606/ゴ
- ・ 平和博覧会記念写真帖 平和博覧会 L606/ヘ
- ・ 北岡善之助伊勢の博覧会男 郡長昭／文 高橋道弘／編 伊勢志摩編集室 L289/キ
- ・ 博覧会を了えて 北岡善之助／著 宇治山田市役所 L606/キ
- ・ 世界祝祭博覧会まつり博・三重'94 公式記録 世界祝祭博覧会協会 L386/セ
- ・ 広報いせ 平成 28 年 9 月 1 日号(No196)、平成 29 年 4 月 1 日号 (No210)

図書館だより4月号 No.206 増刊 ふるさとの風 April.2019 平成 31(2019)年 4 月 20 日発行

(編集・発行) 伊勢市立伊勢図書館 指定管理者/株式会社図書館流通センター (住所) 〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078 (ホームページ) <http://iselib.city.ise.mie.jp/>

© 2019 mami ishikura

1851 London 万国博覧会が産声をあげたのは1851年（嘉永4）。産業革命が最も進んでいたイギリス、ロンドンである。王立公園ハイドパークに建築された透明に輝く巨大なガラスパビリオン「水晶宮（クリスタル・パレス）」を会場に144日間に603万人を集めた。

1853 New York, 1876 Philadelphia アメリカはロンドン万博の2年後の1853年（嘉永6）にニューヨークでの博覧会開催を皮切りに、1876年（明治9）には合衆国独立100年を記念するフィラデルフィア万博を開催した。

1889 Paris フランスの首都パリのエッフェル塔は、1889年（明治22）のフランス革命100年を記念した第4回パリ万国博覧会のシンボルとして登場したもの。史上初めて3,000万人を超える集客を果たしたパリ博は万博ブームを起し、19世紀末には各地で多くの巨大博覧会が開かれた。このパリ博は万博のモデルとなり、象徴となった。日本美術がパリ博などの機会を通じて紹介され、ジャポニズムが受け入れられたのもこの時代である。

1893 Chicago フィラデルフィア万博の17年後の1893年（明治26）には「コロンブス新大陸発見400年」を記念する大規模な万博がシカゴで開催された。

1900 Paris 19世紀を終決算するとともに20世紀を展望する国際博覧会を目指して開催。史上最大の規模を誇る。壮大華麗な会場に5,086万人を集客して頂点を極めた。世界をテーマにしたアトラクション「バーチャル世界旅行」が登場。人気を博した「世界旅行パノラマ」は大型客船に乗って世界を旅するという趣向の大パノラマ、「シベリア横断」は車窓奥の4層の風景画を異なるスピードで動かし臨場感を演出する仕掛けであった。

1904 St.Louis 20世紀最初の万博は、ルイジアナ購入100年を記念したセント・ルイスで開催、万博史上最大の会場面積を誇った。また「民俗学展示」がかつてない規模で展開され、人類学者が辺境地から連れ帰った“ホンモノの原住民”を、部族ごとに集落を作って住ませた。

1933 Chicago 1933年（昭和8）シカゴが再び万博を開催。シカゴ市制百周年を記念した《進歩の世紀博覧会》で万博にはじめてテーマが出現する。掲げたのは『進歩の1世紀』。シカゴの100年が産業革命後の近代化100年と重なることから、これまでの1世紀を振り返り、これからの1世紀を展望しようとのメッセージが込められていた。GM（ゼネラル・モーターズ）やシアーズといった大手企業のパビリオンが出展した。

※テーマとは、その万博が考えようとする命題、世界観、未来像などをワンセンテンスで象徴的に表現したもの。いわば主催者からの問いかけであり、出展者は展示をとおしてこの「問い」に対する「答え」を提示する。
（『図説万博の歴史 1851-1970』平野暁臣／著）

1939 New York テーマは『明日の世界』、1939年（昭和14）開催。シカゴで確立した“民間企業の単独館出展”という参加形態が主役の座に躍り出る。GM、フォード、GE（ゼネラル・エレクトリック）などの万博常連組に加えて、US スチール、AT&T、コダックなど、ナショナルブランドの大企業が勢揃いし、最新技術と先端的な展示手法を競った。

これが戦前最後の大型万博で、以後、万博は長い空白を余儀なくされることになる。

1958 Brussels 第二次世界大戦後初の世界的なスケールの博覧会は、1958年（昭和33）『科学文明とヒューマニズム』をテーマにブリュッセルで開かれた。シンボルとして作られた「アトミウム」は原子を象徴する巨大モニュメントだった。

1964 New York（※博覧会国際事務局（B I E）未公認） 「理解を通じての平和」をテーマに掲げ、1939年の万博の跡地で開催。公式の万博でなく世界博覧会の名称だが、最新の展示技術を駆使した企業パビリオンの存在感は圧倒的で、まさにテーマパークの様相を呈していた。

※博覧会国際事務局（B I E）…「Le Bureau International des Expositions」（フランス語）の略。1928年（昭和3）、フランスの招請に応じて40ヶ国が参加して博覧会に関する国際会議が行われ、「国際博覧会に関するパリ条約」が31ヶ国の代表により締結された。この条約に基づいて博覧会を管理し実務を担う政府間機関「博覧会国際事務局」が創設された。本部は、フランスパリ。加盟国は170ヶ国（2018年現在）